

Views from Orienteering

村越 真

View74: ガンダムオリエンテーリングと見えない人の世界

まだ若い研究者だったころ、「人はナビゲーションの時、地図から何を読み取り、どんな判断をしているのか」に興味を持って、様々な手法で研究をしていた。レース後のトップ競技者にインタビューすることで、レース中の思考を明らかにしようとしたこともあった。自分の経験からも、トップ競技者は、レース直後であれば相当なことを思い出して語ることができた。ナビゲーションサイクルとか、様々な論理的な判断といったトップ競技者の思考方法は、こうした研究から明らかになった。だが、語られた言葉はリアルタイムではない。

何かトラブルが発生した時、どんな情報を読み取りどんな判断をするのか。オリエンテーリングのパフォーマンスにとっても重要なこの問いは、同時に自然という不確実な場で人がどのような周囲を見ているかについての興味深い手がかりを与えてくれる。その様子をリアルタイムで把握してみたかった。そこで思いついたのが、トランシーバーを使って二人に話をさせながらオリエンテーリングをさせるという方法だった。一方は地図を持つが定点にいる。他方は実際にコントロール目指して移動するが地図はなく、コンパスだけを持つ。もちろん、これは通常のオリエンテーリングとはかなり異なる状況だが、地図と現地から何を読み取り、相互を関連づけながらどんな意思決定をしているかについて、多くのヒントを与えてくれた。

たとえば、この状態でうまくナビゲーションができたトップ競技者のペアは、地図役が量的に適度な情報を移動役に伝えていた。また、移動役が周囲を見て得た現地情報を活用していた。移動役は単に地図役から指示を受ける存在ではない。自分にしか見えない周囲の情報を主体的に地図役に伝えることで、ナビゲーションの成功に大きな役割を果たしていたのだ。この知見はオリエンテーリングのみならず、僕が現在登山者やアウトドア活動者に地図読みを教える時の重要なヒントとなっている。

時は流れ、再びアウトドアでの本格的

なナビゲーションを教える機会が増えた。3月12日、入間の稲荷山公園で行ったClub阿闍梨のチャレンジナビゲーションで、再びこの方法で読図講習を行った。純粋な研究ではなく、二人の情報のやりとりを通して効果的な地図や現地情報の読み取りについての気づきを得るために。

ついでにキャッチーな名前を考えた。名付けて「ガンダム・オリエンテーリング。」地図を読む役がアムロかセイラ（女性の場合）、そして移動役がガンダムである。ガンダムという名称に惹かれたのか、40人以上の参加があった。無線による通信はあきらめ、ガンダムのうしろにアムロが立ち、二人で移動しながら、アムロはガンダムに言葉で地図情報を伝えるという形式で行った。

この方式だと、ガンダムが見ているものはアムロも見ているので、現地情報の重要性に気づくことは難しかった。その一方で、「思ったとおりにガンダムが動いてくれない」、「いつも漠然と読んでいる地図情報を意識して読んで」「言葉にするのが難しい」といった気づきを得られた。中には、「相手がちゃんと動いてくれるように、自分で言葉を選んで伝えなければならないのは仕事も一緒」といった汎用性のある気づきもあったようだ。



ガンダム0で「操縦」のこつをレクチャーする筆者。ガンダムは右向きにピンク色のウェアを着て、コンパスを構えている女性



今度はガンダム体験。操縦するのはセイラさんこと田島利佳さん。30度曲がれという15度曲がっちゃう、など言語的コミュニケーションの難しさも思い知る

誰もが携帯電話を持つ時代。利用料さえ気にしなければ、携帯電話を使ってガンダム0ができる。まさに遠隔操縦。君は覚醒してガンダムを意のままに操れるか！？様々な気づきのある練習方法である。

View75: 茶の里いるま大会

オリエンテーリングを活性化させ、JOAの運営を軌道に乗せるにはどうしたらいいのかと悶々としていた年末年始、入間 OLC の田中さんに会った。活性化についての様々なアイデアを交換したのだが、その時、4月24日の入間 OLC の大会でこれまで暖めていたアイデアを総合的に実現できないかを打診した。

一つはオリエンテーリング愛好者が大会会場でより充実して過ごせるとともに、技術的に自分を高めるヒントを得るために。もう一つは、潜在的にオリエンテーリングに興味を持つ人がオリエンテーリングをスタートしやすくすると同時に、オリエンテーリングの奥深さに気づくために。

前者については、むろん様々な作戦があるが、気軽に実施できなおかつ本質的なのはルートチョイスだろうと考えた。ポイント間のルートを自由に決められるのはオリエンテーリングの本質であり、そこに楽しみも生まれる。レース後のルート談義や、その中で「オレのルートはやっぱりよかったのだ」、「こんなルートもあったのか」といった事後の気づきは、オリエンテーリングの楽しみの大きな部分を占める。

しかし、同じクラブや仲間にもうコースを走った人がいればいいが、そうでなければなかなか他人のルートを見たり、比較することはできない。また、エリート競技者は、大きなルートチョイスから、マイクロなルートチョイスまで、常に繊細な意思決定を行っている。それに触れることは、他のスポーツで言えばファインプレーのビデオを見ることに相当するが、これも身近にエリート競技者がいなければなかなか聞く機会がない。エリートクラスのルート解説、そしてそれ以外のクラスの上位競技者のルート揭示。ほとんどコストのかからない簡単な方法だが、そこからはテクニカルな面だけでなく様々な

メリットが生まれるはずだ。

後者については、チャレンジナビゲーションクラスの開設を依頼した。最近のロゲイニングのブームや OMM(オリジナル・マウンテン・マラソン)の人気で、アウトドアでのナビゲーションをしたいという需要は確実に高まった。

だが、一般のオリエンテーリング大会は彼らにとっては超難しく、また短か過ぎる。草サッカーでもいいから試合で走り回りたいという人に室内で100回のリフティングを強要するようなものだ。おまけにオリエンテーリングの大会要項は読みこなすのが難しく、会場に来てからも、スタートへの誘導やら複雑なスタート方式やらの敷居が高い。このハードルさえ取り除いてあげれば、もっと需要があるはずである。簡単なコース、ある程度の長さのあるコース、事前に簡単な説明と事後の振り返り。これが、僕がお願いしたコンセプトだった。入間の参加費は2000円弱。これに対して「4000円で50人は集めます！」と啖呵を切った。

結果は、一般のオリエンテーリングクラスの出だしがまだまだだったうちから50人の定員はほぼ満杯。このエリアで存在感を示すTEAM阿闍梨の田島利佳さんのネームバリューとアドバイスも大きかった。彼女のアドバイスでコースもよくなった。クラブ内には易しすぎるのではないかという懸念もあったようだが、結果から見れば、柳下君が1:45で走るコースで4時間以内での完走者は25%という完走率の低さ。この難度でも、骨がありすぎると感じる層がオリエンテーリングをナビゲーションの練習のためにしてみたいと思っ

ていることが分かる結果となった。

大会活性化の企画はオリエンテーリング界の内部で公表された結果、様々な付加的企画を生むこととなった。高島和宏さんはGPSトラッキングの実施を申し出てくれた。これについては現在でも、ウェブ上で見ることができ、上位選手の走りの様子を比較することができる。チャレンジナビゲーションクラスには大きなルートチョイスが一箇所あるが、そこで急な尾根を越えるのと、その5倍以上走りやすい道走りはほぼタイムが一緒だという半信半疑の競技中の判断も実証されたり、自分自身にとっても学ぶべきことが多かった。

また、藤島由宇さんは、クイック0を進化させ、ゴールから戻ってきた参加者への体験会を開催してくれた。こ

ちらの方は参加者が30人強だったそうだ。幾何学的な地図を使うクイック0は、オリエンテーリングとは全く違うもののように思われるかもしれないが、地図を使って瞬時に行う判断や対戦勝負ができること、すぐに勝敗が分かることなど、スポーツ的な要素が顕在化されている。おまけに、地図の効率的な見方や整置による素早いコントロールからの方向を決めた脱出など、エリート選手のスキルへの気づきやブラッシュアップの方法としても楽しめる。

スタートは思いつきだったが、オリエンテーリングを活性化させる様々なアイデアを現実の場にさらせたことは大きな収穫だった。



チャレンジナビゲーションクラスで、簡単な事前レクチャーを受ける参加者たち。4000円の参加費で50人の定員がすくばいになった



競技終了後の参加者向けにクイック0の体験会も行われた。



玉露(最上位)クラスの上位者ルート解説はGPSトラッキングもあり、多くの参加者の熱心な視聴を得た



玉露も含めて全クラスの上位者のルート図であれこれと議論する参加者たち。ちょっとした工夫でコミュニケーションやスキル上達の機会が提供できる。

View76: 世界オリエンテーリングの日

5月11日はIOFが提唱した「世界オリエンテーリングの日」なぜこの日が世界オリエンテーリングの日かはよく分からないが、とにかく世界全体でこの日にオリエンテーリングをして、その総人数の記録を打ち立てようという企画だ。日本からは6箇所が参加。大学から小学校。校内でのオリエンテーリングから自然体験までバリエーションは豊かだった。

あいにくこの日は全国的にも雨模様で、私が企画した附属静岡小学校では雨プログラムとして用意した体育館での簡単なクイック0を実施した。1・2年生(200人)を対象にしたプログラムは熱狂とともに混沌ももたらし、教育的には成功とは言いがたいが、おかげで、経験値があがった。オリエンテーリングは興味深いプログラムであることを再認識するとともに、小学校教育に取り入れてもらうための繊細な仕掛けの重要性を深く思い知った次第である。

なおプログラムの実施にあたっては、SIの借用について京都府オリエンテーリング協会、オリエンテーリングクラブサンスーシの協力を、運営については、茅野耕治さん、小泉成行さん、村越久子さんの協力と、実施校である附属静岡小学校の絶大な協力を得ました。ここに感謝します。



日本からは6サイトが参加。岩手と大阪、関東周辺で4サイトが見て取れる。5月12日夜時点での総計上数が11.5万だから記録達成は難しかったかも

(村越 真)